資料2

地域課題解決に向けた意見交換

～認知症の方の早期発見のために各機関でできること～

令和3年3月25日　印西市高齢者福祉課

意見交換の流れ

1. 市で行っている認知症施策

2. 認知症の人の出すサインに気づくポイント
　～認知症疾患医療センター（日本医科大学千葉北総病院）から～

3. 市の施策へのご意見及び各機関でできること

1. 市で行っている認知症施策

認知症サポーター養成講座	令和2年度実績 ※小学生は今年度実績なしのため、令和元年度実績を記載	
	開催回数	参加人数
小学生（高学年）対象	１５	１，００９
一般対象	１１	２６７

※認知症についての正しい知識を持ち、認知症の人やその家族を見守ったり、そっと手助けする応援者を養成するための講座です。

認知症ケアパス	令和元年度実績
概要版発行	１，０００部

※居宅介護支援事業所やオレンジカフェ事業のポスター掲載場所（市内公共施設等）に配布しています。

認知症初期集中支援チーム	令和2年度実績
対応件数	9件

※認知症の疑いがある人や認知症と診断された人で、適切な医療や介護サービスに繋がっていない人やその家族に対して、チームが6か月間を目途に集中して支援を行う事業です。

ＳＯＳネットワークの運用

※認知症などで徘徊する高齢者等を早期発見・保護するシステムです。
　印西警察署管内の2市1町と警察署・消防署、関係機関をはじめ、近隣の事業所が協力し、ネットワークを構築しています。

見守りネットワーク	令和2年度実績
協力事業者数	１２

※地域で事業を展開する事業者と協定を結び、日頃の業務の中で異変を感じたときに、市に連絡をしていただくことで、必要な支援が必要な時につながる体制づくりに取り組んでいます。

オレンジカフェ（認知症カフェ）	令和元年度実績 ※令和2年度は感染症予防のため開催せず	
	開催回数	参加人数
印西北部地域包括支援センター	４	７５
印西南部地域包括支援センター	５	８５
船穂・牧の原地域包括支援センター	７	１３８
印旛地域包括支援センター	３	４８
本埜地域包括支援センター	３	６１
合　計	２２	４０７

※オレンジカフェは、認知症の人とその家族、地域住民、専門職等の誰もが気軽に参加でき集うことができる場所を提供することにより、認知症になっても住み慣れた地域で安心して生活を続けられること、及び家族の介護負担の軽減を図ることなどを目的とし、各包括が市内の公共施設や介護サービス事業所の場所を借りて開催しています。

【市の施策についての現状】

認知症施策としての主なものは前述のとおりですが、早期発見に結び付くと思われるものは「**認知症サポーター養成講座**」ではないかと考えます。これまでは小学生を対象とした講座がメインで、地域の方や企業等への講座の開催はまだまだ少ない状態です。

認知症の方を早期に発見するためには、まずは認知症という病気について、地域の皆さんや様々な職種の方に知っていただくこと、その上で地域で心配な高齢者に気づいていただくこと、気づいた方が地域包括支援センターなどに相談をしていただけることが第一歩と考えています。また、認知症の方自身が誰かに支援を求めることができる地域であることも重要です。

2. 認知症の人の出すサインに気づくポイント

～認知症疾患医療センター（日本医科大学千葉北総病院）
印西市認知症初期集中支援チーム員　　齋藤　多恵子さんから～

資料は別添のものを使用

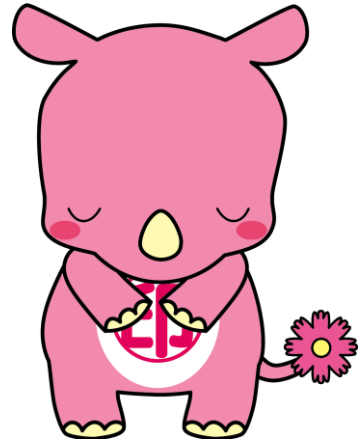
3. 市の施策へのご意見及び各機関でできること

【本日のテーマ】

- 認知症の方を地域で早期に発見できる地域づくり
- 認知症になっても住み慣れた自宅で安心して生活ができる地域づくり

【市の施策の課題】

- 認知症を患っている独居の方や高齢者世帯など、より支援が必要と思われる人への相談先などの周知が十分できていない
- 地域で認知症という病気についての周知が十分できておらず、また、気づいたとしても相談先へつながらないこともあり、問題が大きくなってからの相談となってしまうことがある

【ご意見やご提案をいただきたいこと】

本日のテーマを実現するため、既存の支援方法での課題を踏まえたうえで、認知症の方が住み慣れた地域で安心して生活を続けるために、これから市が取り組んだ方がよいこと、地域や様々な関係機関ができる取り組みについて、特に**周知（情報発信）や啓発について**いろいろなご意見やご提案をいただけたらと思います。